

デーリー東北
2019年(平成31年)2月28日(木曜日)(16)

自動運転デリバリーロボや電動車いす…

米国見本市「CES」派遣の学生が報告会

八戸

米ラスベガスで1月に開かれた、世界最大規模の家電見本市「CES」を視察した青森県内の大学生とIT関係者による報告会が23日、八戸市十三日町の八戸ニューポートで開かれた。現地で人工知能(AI)やIoT(モノのインターネット)などの最新技術に触れた学生は、「得た経験を青森に還元できれば」と語った。(齋藤桂)

「経験 青森に還元したい」

掲載の許諾が取れないため
写真は削除しております。

CESを視察したのは、青森公立大経営経済学部地域みらい学科3年の蛭沢恭子さん(21)と三沢市と、八戸工業大工学部システム情報工学科2年の落合佳祐さん(20)と階上町。県内のIT関連会社7社が旅費を負担し、2人に機会を提供。企画したIT会社へプタゴン(三沢市)の立花拓也代表(34)と、アイテイクワーク(八戸市)取締役の岡本信也さん(40)も同行した。報告会で、蛭沢さんは画像をスクリーンに映しながら、下着に装着するヘルスタグや自動運転デリバリーロボットなどを紹介。「日本のブースは少なく、世界と比べると、まだまだと感じた」と率直に語った。落合さんは、全方向に動ける電動車いすなどを取り上げた。「期間中は歩き通しだったが、疲れを忘れるくらい、ワクワクする製品があった。また行ってみたい」と発表した。報告会には一般市民ら15人が参加し、立花さんと岡本さんの報告にも聞き入った。立花さんは取材に「学生の派遣を継続してやっていければ」と話していた。